

平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年10月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 藤商事

コード番号 6257 URL <http://www.fuimaruken.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松元 邦夫

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 當仲 信秀

四半期報告書提出予定日 平成27年11月6日 配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト、機関投資家向け)

TEL 06-6949-0323

平成27年12月7日

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第2四半期の業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	18,581	△41.7	457	△90.4	530	△89.0	307	△90.0
27年3月期第2四半期	31,849	4.7	4,787	△28.4	4,835	△28.1	3,079	△24.1

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	12.61	—
27年3月期第2四半期	126.22	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
28年3月期第2四半期	59,533		50,542		84.9
27年3月期	64,694		51,098		79.0

(参考)自己資本 28年3月期第2四半期 50,542百万円 27年3月期 51,098百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
28年3月期	—	25.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	25.00	50.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,600	△20.6	4,000	△49.6	4,100	△48.4	2,600	△46.0	106.58

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期2Q	24,395,500 株	27年3月期	24,395,500 株
28年3月期2Q	— 株	27年3月期	— 株
28年3月期2Q	24,395,500 株	27年3月期2Q	24,395,500 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は平成27年11月2日(月)に当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府主導による経済政策などを背景に、企業業績や雇用環境等は改善傾向にあり、景気はおおむね緩やかな回復基調が続きました。

パチンコホール業界におきましては、低貸玉営業での遊技機設置比率が上昇するなか、従来の営業形態での集客や稼働は低迷しております。また、一部の人気シリーズの後継機種稼働は堅調に推移したものの、全体の収益面は伸び悩みを見せており、経営環境は引き続き厳しい状況にあります。

そのため、遊技機の購入につきましては慎重な姿勢により、安定稼働が見込める機種を選択する傾向にあります。

このような状況のもと当社は、『知恵と工夫』をもってお客様から期待され、稼働する遊技機を創造するため、新ジャンルの確立や独自性の追求などにより、差別化された商品を実現することに取り組んでおります。また、パチンコ・パチスロファンの皆様の魅力を感じる遊技機の提供を通じて、機種ごとの販売計画を着実に達成し、利益を確保できる体制作りを推進しております。

当第2四半期累計期間におきましては、パチンコ遊技機では4タイトル、パチスロ遊技機では1タイトルを市場投入いたしました。

なお、8月に発売した「CR着信アリ」が厳しい商戦を強いられ、販売台数は低調に推移いたしました。また、発売を予定しておりました1機種については、第3四半期以降に変更いたしました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の業績につきましては、売上高185億81百万円(対前年同期比41.7%減)、営業利益4億57百万円(同90.4%減)、経常利益5億30百万円(同89.0%減)、四半期純利益3億7百万円(同90.0%減)となりました。

※製品別の状況は次のとおりであります。

(パチンコ遊技機)

パチンコ遊技機につきましては、新規タイトルとして、「CR地獄少女 弐(ツ一)」(平成27年4月発売)、「CRクリスタル&ドラゴン」(平成27年5月発売)、「CRリング 呪い再び」(平成27年6月発売)、「CR着信アリ」(平成27年8月発売)を市場投入したほか、前事業年度に発売したシリーズ機種などを追加販売いたしました。

なお、商品開発における取り組みとしましては、「CR着信アリ」は、当該コンテンツの持つ特有の世界観を表現したホラーシリーズの機種となっております。

以上の結果、販売台数は55千台(対前年同期比26.3%減)、売上高185億14百万円(同31.1%減)となりました。

(パチスロ遊技機)

パチスロ遊技機では、「パチスロ 地獄少女」(平成27年9月発売)を市場投入いたしました。

なお、商品開発における取り組みとしましては、パチンコ遊技機で人気を博した「CR地獄少女」シリーズをパチスロ化し、当コンテンツの独特の世界観をそのままに、幻想的で刺激的な地獄少女ワールドを再現いたしました。

以上の結果、販売台数は0千台(対前年同期比98.9%減)、売上高66百万円(同98.7%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債および純資産の状況

総資産は、前事業年度末に比べ51億60百万円減少し、595億33百万円となりました。

これは主に、前渡金が6億2百万円、工具、器具及び備品(純額)が4億98百万円増加したことなどに対し、現金及び預金が64億14百万円減少したことなどによります。

負債は、前事業年度末に比べ46億4百万円減少し、89億91百万円となりました。

これは主に、未払法人税等が29億5百万円、賞与引当金が2億67百万円減少したことなどによります。

純資産は、前事業年度末に比べ5億56百万円減少し、505億42百万円となりました。

これは主に、利益剰余金の減少などによります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前事業年度末に比べ64億14百万円減少し272億24百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、33億28百万円(前年同期は105億25百万円の資金の増加)となりました。

これは主に、税引前四半期純利益5億35百万円、減価償却費9億96百万円などが増加の要因であり、法人税等の支払額28億95百万円、未払金の減少額12億97百万円、前渡金の増加額6億2百万円などが減少の要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、24億75百万円(前年同期は18億80百万円の資金の減少)となりました。

これは主に、有形固定資産の売却による収入1億6百万円などが増加の要因であり、有形固定資産の取得による支出17億53百万円、投資有価証券の取得による支出8億30百万円などが減少の要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、6億10百万円(前年同期は6億9百万円の資金の減少)となりました。

これは、配当金の支払によるものであります。

(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、平成27年10月13日に公表しました、「業績予想の修正に関するお知らせ」からの変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	34,039	27,625
受取手形及び売掛金	5,108	4,930
有価証券	504	703
商品及び製品	64	30
原材料及び貯蔵品	3,799	3,686
前渡金	2,992	3,594
繰延税金資産	2,760	2,864
その他	231	532
貸倒引当金	△9	△8
流動資産合計	49,490	43,959
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,750	1,706
機械及び装置(純額)	312	270
工具、器具及び備品(純額)	1,128	1,626
土地	3,207	3,118
その他(純額)	77	125
有形固定資産合計	6,475	6,847
無形固定資産	162	168
投資その他の資産		
投資有価証券	6,503	6,657
長期前払費用	1,368	1,287
その他	1,131	1,049
貸倒引当金	△438	△435
投資その他の資産合計	8,565	8,559
固定資産合計	15,203	15,574
資産合計	64,694	59,533

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	5,715	5,825
未払法人税等	2,937	31
賞与引当金	558	290
役員賞与引当金	180	—
その他	2,584	1,328
流動負債合計	11,975	7,476
固定負債		
退職給付引当金	792	650
その他	827	864
固定負債合計	1,620	1,515
負債合計	13,596	8,991
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,281	3,281
資本剰余金	3,228	3,228
利益剰余金	43,555	43,253
株主資本合計	50,065	49,763
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,033	779
評価・換算差額等合計	1,033	779
純資産合計	51,098	50,542
負債純資産合計	64,694	59,533

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	31,849	18,581
売上原価	17,920	10,251
売上総利益	13,929	8,329
販売費及び一般管理費	9,141	7,871
営業利益	4,787	457
営業外収益		
受取配当金	29	39
受取賃貸料	10	10
利用分量配当金	5	16
受取ロイヤリティー	3	3
その他	22	27
営業外収益合計	71	97
営業外費用		
シンジケートローン手数料	19	19
賃貸収入原価	2	2
その他	1	2
営業外費用合計	23	24
経常利益	4,835	530
特別利益		
固定資産売却益	—	7
特別利益合計	—	7
特別損失		
固定資産除却損	0	2
特別損失合計	0	2
税引前四半期純利益	4,835	535
法人税、住民税及び事業税	2,022	26
法人税等調整額	△266	200
法人税等合計	1,755	227
四半期純利益	3,079	307

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	4,835	535
減価償却費	1,356	996
貸倒引当金の増減額(△は減少)	3	△3
賞与引当金の増減額(△は減少)	296	△267
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△97	△180
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△43	△142
受取利息及び受取配当金	△40	△50
固定資産売却損益(△は益)	—	△7
固定資産除却損	0	2
売上債権の増減額(△は増加)	△5,514	178
たな卸資産の増減額(△は増加)	△58	145
前渡金の増減額(△は増加)	489	△602
長期前払費用の増減額(△は増加)	208	13
仕入債務の増減額(△は減少)	8,544	409
未払金の増減額(△は減少)	785	△1,297
その他	81	△222
小計	10,848	△492
利息及び配当金の受取額	48	59
法人税等の支払額	△371	△2,895
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,525	△3,328
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△101	—
有価証券の償還による収入	500	100
投資有価証券の取得による支出	△811	△830
有形固定資産の取得による支出	△1,322	△1,753
有形固定資産の売却による収入	—	106
無形固定資産の取得による支出	△25	△36
投資その他の資産の取得による支出	△121	△71
投資その他の資産の回収による収入	2	9
その他	—	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,880	△2,475
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△609	△610
財務活動によるキャッシュ・フロー	△609	△610
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	8,035	△6,414
現金及び現金同等物の期首残高	26,425	33,638
現金及び現金同等物の四半期末残高	34,461	27,224

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。